

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705		
法人名	有限会社 グループホーム 花		
事業所名	グループホーム 花		
所在地	小樽市 最上 2丁目 19番 9号		
自己評価作成日	平成26年7月10日	評価結果市町村受理日	平成26年8月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して外出する機会を出来るだけ多く取り入れていると思います。昨年はサクラランボ狩り・海水浴・サトランドへバター作り体験・市内をドライブ・市内のモール街へ買い物など行きました。今年も出来るだけ外出の機会を増やしお洒落して楽しく外出できるように支援していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000705-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 7 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも同じ顔ぶれで自分らしい生活を地域の中で送れるよう支援する」と理念を常に見える場所に掲げ、職員皆が共有できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、近隣の保育園児・中学校生徒が年に数回訪問され触れ合っている。又、中学校の学園祭に招待されている。毎年、当ホームにて行われているフリーマーケットにも今年は参加したいと中学校側よりお話を頂き、地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様に今年も近隣中学校の学園祭前に生徒が認知症を抱えている入居者様に対しての支援方法を学びにくる予定。少しずつ認知症の人の理解をして頂き活かせていると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度は必ず包括支援センター職員・町内会長・地域住民の方に参加して頂きと運営推進会議を開催している。他方面での話や意見を頂きサービス向上に活かせていると思います。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、介護保険課・包括支援センター・保健所・消防署など、担当者に積極的に連絡して協力関係を築くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は当ホームでは行っていません。研修会に参加し全体会議などにて「禁止となる具体的な行為」を正しく理解して頂き職員との共有を図って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は社内研修で「虐待の防止」について話し合いをしている。又、施設長・管理者等が虐待が見過ごされる事の無いよう注意を払い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援はケアプランに沿って行っている。成年後見人制度は、利用者一人ひとりの必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定や契約内容の変更に伴い、説明、理解、納得を図り変更同意書を2部発行しサイン及び捺印を頂き双方で保管している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時など意見や要望、苦情を言いやすいような環境づくりを心掛けている。また要望などがある場合は直ぐに対応するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き職員からの意見や提案を聞く機会を設け反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に現場に出入りできる状態にありしっかり職員の勤務状況を把握し、働きやすい環境・雰囲気を作っており各自が向上心を持って働けるような環境条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修があれば、都度職員に呼びかけて参加して頂いている。又、外部で学んだことを内部研修等で他職員に学んだ事を講師として講習していただくシステムに少しずつ変えて皆が共有できるように努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・リーダーは「ケアネット」という勉強場の幹事を務める事で、活動を通して同業者、又は他業種の方とのネットワークづくりをして質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームに入居する時は、事前に御本人・ご家族と面会し御本人の状況・状態・要望・不安な事など、しっかり耳を傾け安心して入居できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームに入居する時は、事前に御本人・ご家族と面会し御本人の状況・状態・要望・不安な事など、しっかり耳を傾け安心して入居できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に関係機関から情報を収集し「どのような支援等」をご本人が必要しているか見極めサービスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人が出来る事は自分で頂き、出来ない所、又は必要な箇所を支援するようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、毎月お手紙にて状況報告を行っている。又、訪問時には様子や状態のご報告と伴に相談したり、助言・ご意見等をいただいたりなど本人を支えていく関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの方からの問い合わせがあった際には気軽に面会に来られるような環境作りや。掛かりつけ医や行きつけの美容室に行ったり、関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での場では、一人ひとり入居者様同士の関係を把握し、状況に応じて席を替えたり職員が間に入って関わりあえるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後もご家族様や新たに入所される施設側等を出来るだけフォローし相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話や毎日の生活リズムの中から思いや希望、意向などを把握できるように努めている。困難な場合には、ご家族様から意向を汲むようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、入居申込書にて生活歴・生活環境・現状のサービス利用状況等を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個別に入居者様の様態・行動をしっかりアセスメントし、職員皆が現状の状況を共有しより良いケアができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族、又は医療機関と、こまめに情報・意見・アイデアを反映し、担当者会議を開き話し合いの元、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はパソコンにて職員が何時でも記入及び観覧できる状態である。又、別に気づきノートがあり職員間では何時でも観覧でき情報の共有がされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に状況の変化があった際には早急に関係機関等に連絡するなどその時々生まれるニーズに対して早く柔軟な支援サービスをするようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会、地域住民との交流を行いご自宅で生活をしていくと変わらない豊かな暮らしを過ごしてもらえるような支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にはご家族や職員が通院支援を行い受診をしている。ホーム提携の医療機関からは月2回の訪問診療を受けており歯科訪問診療については必要に応じた対応をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に医師や看護師との連絡を行い指示をおおぎ必要な受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	掛かりつけ医との関係づくりを積極的に行い入院中も利用者様の状況を相談員や看護師などから教えて頂き利用者様が安心して治療を受けられるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について家族様と話し合い、方向性を定め、その後も都度ご本人やご家族様の意向を確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、赤十字などの救命措置の研修に積極的に参加し都度、緊急時にそなえた訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度に2階、必ず日中帯。夜間帯を想定しての非難訓練を行っている。その際、消防署員と地域の住民も必ず参加して頂き対処法を学ぶとともに体制づくりをしている。又、毎年行われている自衛消防訓練指導会に参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬や心使いを常に忘れず対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が好きな物、やりたい事などを、会話にて受け取り日常の中で声かけをして自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを尊重して介護者側からのおしつけにならない支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しカット・カラーリング・パーマと利用者の希望するオシャレが出来るよう支援している。その他にホーム側では希望により眉毛のカット及び顔剃りやマニキュアをつける等のオシャレを楽しめるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり下準備や食後の後片付け（洗い物・濯ぎ物・食器拭き・テーブル拭きなど入居者様と一緒にしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を思うように取れない方にはゼリー等で水分を補給していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯間ブラシなどを使い歯磨きを行っています。又、個々の力に応じて訪問歯科にて治療・口腔ケアをお願いしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はパットを使用して頂き、一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握して都度、声掛けにて排泄の自立支援を行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面で海藻や食物繊維や乳酸菌の多い物をきょくりよく取り入れています。又、自力排泄困難な方については医師に相談するなどしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定めた入浴日以外の日にも、入浴の希望があればタイミングを見計らい入浴できるように支援しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や習慣を配慮して自由に各居室・憩いの場のソファにて、休息や就寝が出来るように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、調剤内容・用法など医師・薬剤師と連絡を密にして確認及び理解をしている。又、調剤の変化があった場合など症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日であれば外気浴、その他にもゲーム・唄を一緒に歌うなどしている。又、手芸をしたりして気分転換をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中々、外出する時間がとれず外出できない時もあるが、落ち着きがない時や天気の良い時は敷地内を散歩したり外へ連れて行けるように支援している。又、今年も「さくらんぼ狩り」「海水浴」「カラオケ」への外出も予定している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者様は、ご家族様との契約によりホーム側でお小遣いを管理している。又、紛失など家族様が同意の上で自己管理され所持している入居者様もおられますのでお金を所持したりつかえるように支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様自ら手紙・電話をする事は無いが、ご家族様より電話や手紙・はがき等は時よりあり。ホーム側からは、毎月、職員にて手書きの「お手紙」及び「花たより」を送付し日常生活状況の報告支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは1日に何度も掃除をしていて清潔な環境で心地よく過ごしていただいていると思います。又、季節行事で作った飾り物など置いたり飾ったりと模様替えをして季節感を感じていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での一人ひとりの場所では、リビング・通路を挟んで向かいの憩いの場(テレビ有り)・通路の端から端(全体を見渡せる位置)にある2.3人用のベンチがあり各々が自由に行き来して気の合った入居者同士が共に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を使って頂くため居室の物は全て入居者様の私物であり、家族様の写真を飾っているなど入居者様の部屋の模様や配置も自由にされて居心地よく過ごせるよう配慮していると思います。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間や居室の掃除、ご飯支度や後片付け、色々なお手伝い等、安全に見守りをして入居者様に「出来ること」や「わかること」を活かし自立した生活を送っていただいている。		